

千葉県茂原市における隧道の価値と観光利用への可能性

社会学部現代社会学科 2222074

指導教員 中島慶二

氏名 新田瑠

要旨

千葉県茂原市の隧道について取り扱おうと決めたのは、県内幾つもの隧道やトンネルを趣味で巡り、千葉の隧道や切通に魅了されたのが始まりである。

この研究における問いは、古くから存在するにも関わらず、知名度が無く放置されている様に見える場所が多い茂原市の隧道の価値を見出すことだ。その上で、幾つもの価値を有する隧道を観光へ活用するにはどうしていけば良いかを考察するのが研究の目的である。

第1章では、県内の有名な隧道やトンネルを巡ってきた私がどうして茂原の隧道群を研究しようと思いついたのかを大まかに述べている。

第2章では、茂原の隧道の現状について始まり、数少ない参考文献紹介、最後に価値のあるはずの隧道について、市が観光へ利用することを全く考えていない現状から、価値を活かしていくにはどうすべきか問題定義していく。

第3章では、隧道が今現在どのような状態であって、観光へ利用するには何が足りないのかを見つけることを目的として、実際に現地にて調査を行い、結果報告を纏めた。

第4章では、調査で明らかになった点として、幾つもの価値についてと、隧道の状態から安全面での不安について考察した。

第5章では、考察を踏まえ、観光へ利用するにはどうすべきか、私なりの考えを観光プランとして組み立て、その為には行政がどう動くべきかの意見を提案した。

最後にまとめでは、今回の調査で隧道という存在に深く触れ、やはり茂原の隧道群は素晴らしいものと再認識したが、やはり観光へ活かすには今のところ、安全面や行政の隧道への関わり方と言ったように足りないものが多すぎる現状を目の当たりにしたこと。その上で上記の考察・提案に至ったことと、うまく利用できるようになれば、県内の他の名の知れた隧道や切通と肩を並べるポテンシャルを秘めているだろうと纏めた。